

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------------------|-------------------------------|----|----------|----|----|-----|-----|----|----|---|
| 2022年度 日本工学院専門学校 | | | | | | | | | | | |
| ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース | | | | | | | | | | | |
| キャリアプランニング 3 | | | | | | | | | | | |
| 対象 | 2 年次 | 開講期 | 前期 | 区分 | 必修 | 種別 | 講義 | 時間数 | 30 | 単位 | 2 |
| 担当教員 | 原田博之/下條慧 | | | 実務 経験 | 有 | 職種 | 音楽家 | | | | |
| 担当教員紹介 | | | | | | | | | | | |
| 1998年に帰国し「寺内タケシとブルージーンズ」に参加。ブルージーンズのレギュラーメンバーとして全国ツアー、レコーディングに参加。他インストバンド「ボンバージャム」での活動、CMソングレコーディング、広瀬香美や陣内大蔵他アーティストサポート、2001年より日本民謡とJazzを融合させたバンド「香都-koto-」を結成するなど、多岐に渡る活動を展開している。 | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | | | | | | | | | | | |
| この講義では、音楽業界で働く為の最低限のルール、業界のルールを道徳的な観点から学生に伝えていく。ミュージシャンとしてスキルを上げるだけではなく、「人」として信頼される礼儀作法や、マナーを指導する。一般常識や、時事問題などを小テスト形式で学生に意識をさせ、世の中の情勢も音楽家として大切であることを伝える。担任とのプラクティスシートという交換日記のようなテキストがあり、このシートを通して、学生が何に悩み、何を今考えているのかを把握し、学生指導に役立てている。自分の考えを文字にして「書く」という行為をさせる時間でもあり、文字化する機会を増やす時間になっている。書くことに慣れさせることで、就職活動で履歴書に記述することに抵抗を持たない学生を育てることも主眼としている。 | | | | | | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | | | | | | |
| この講義を受講していく過程で音楽業界で働いていく為には、情報収集、人とのつながり、人間力、など音楽スキルではない、人としての付き合い方も非常に重要であることを理解し、自立して生きていける意識を持つ事を到達目標としている。講義内ではグループワークなどをメインで行い、学生達自身が司会をしたり、プレゼンしたりとアクティブラーニングの要素も多く取り入れ、学生自身が能動的に発言する授業を構成している。学校生活の日々の悩み、音楽を修得する上での壁など、ミュージックアーティスト科の学生ならではの悩みをクラス全体でシェアすることで、一人で悩まずに生きていく術を体得させていく。仲間を意識した制作進行、コライトの要素もクラス単位で情報をシェアすることから、始まることを伝える。 | | | | | | | | | | | |
| 授業方法 | | | | | | | | | | | |
| 通年を通してPower Pointを使用した視覚に訴える講義の展開と仲間同士で話あるグループワークをメインに進行していく。それに伴った紙資料を配布し、しっかりと記入させるワークを行う。アクティブラーニング要素を重視し、与えられたテーマを複数人で話し、解決策を出すことになれさせ、一人で抱え込まない方法を体得させる。挨拶や言葉遣いは厳しく指導を行っていき、就職活動時の面接等でスムーズに移行できるようにサポートする。2次は社会人としてマナーや知識、そして、セルフマネジメントの知識を習得する。 | | | | | | | | | | | |
| 成績評価方法 | | | | | | | | | | | |
| 試験・課題 | 70% | 課題毎に提出。検定試験の受験・点数により評価 | | | | | | | | | |
| 成果発表 | 20% | 授業内に行われるロールプレイング・グループワークにより評価 | | | | | | | | | |
| 平常点 | 10% | 積極的な姿勢 | | | | | | | | | |
| 履修上の注意 | | | | | | | | | | | |
| 専門学校は出席率100%が基本であるため、理由のない遅刻や欠席は認めない。社会に出れば交通機関が乱れようとも仕事に遅れないことが基本であるため、その認識を高める。また一般常識問題に関しては知らない単語や言葉が出てくるともしばしばあり、その日分からなかったことは講義にあたる担任に確認したり、自ら調べることを怠ってはいけない。コミュニケーション力を重視するため、仲が良い学生だけではなく普段関わりの薄い学生とも交流を持ち、視野を広げること。出席率、提出率が4分の3を満たしていない者、4分の3以上出席しない者は、定期試験受験不可、進級できない。 | | | | | | | | | | | |
| 教科書教材 | | | | | | | | | | | |
| 毎回授業にて資料配布を行う 参考書・参考資料等は授業中に指示をする | | | | | | | | | | | |
| 回数 | 授業計画 | | | | | | | | | | |
| 第1回 | 進級した自分状況把握をし、進路を確認する。レポートを作成する | | | | | | | | | | |
| 第2回 | 自分のビジョンを進めることについて、到達するべき過程を洗い出す | | | | | | | | | | |
| 第3回 | 必要な姿勢、服務に関する基本的事項を伝える。服装による印象を考察する | | | | | | | | | | |
| 第4回 | ストレスへの対処法について具体的に理解し、充実した音楽生活を送る | | | | | | | | | | |
| 第5回 | 社会人としてのマナーを確認し、コミュニケーション能力の向上を図る | | | | | | | | | | |

| 2022年度 日本工学院専門学校 | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| ミュージックアーティスト科／サウンドクリエイターコース | |
| キャリアプランニング 3 | |
| 第6回 | これからの音楽家としての生活を展望して準備すべきことを伝える |
| 第7回 | これからの音楽家としての生活を展望して準備すべきことを伝える |
| 第8回 | 情報の管理、個人情報の基本的な扱い方について理解する |
| 第9回 | クライアントとの信頼関係づくりについて理解を深める |
| 第10回 | 情報活用能力の育成を視野においた授業設計を進める |
| 第11回 | ICTとは何か。基本情報を学ぶ |
| 第12回 | IOTとは何か。基本情報を学ぶ |
| 第13回 | ITを活用した音楽業界の今を知る |
| 第14回 | 第1回で作成した自分の現状把握を見直す。修正点を休み前に確認する |
| 第15回 | 全体のまとめ |